

全学モジュール科目案内

テーマ名	13-11 環境マネジメント		
テーマ責任者	山下 敬彦	責任部局	産学官連携戦略本部
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
趣旨	21 世紀市民のコモンセンスとして環境配慮への理解と環境保全に関する知識を修得し、人類の持続可能な発展(sustainable development, SD)を実現するための基本的な姿勢を身につけることを目的としている。そのため、環境関連の国際法および国内法を精神を理解するとともに、日本のエネルギー事情、環境汚染物質マネジメント、エネルギー・マネジメント等を理解し、研究・開発や企業・法人等における管理業務にも役立つものとする。あわせて、長崎大学におけるエネルギー管理、廃液処理などの実際に触れさせることにより、化学物質の取扱い、実験廃液・廃棄物の処理、エネルギー管理などに関心をもたせ、コミュニティの一員としての自覚を促し、長崎大学のよりよい環境を実現する一助とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題に関する考え方、環境配慮の意義等を説明することができる。(モジュール I 全体) ・環境に関連する法律等の歴史、特質、精神等を説明することができる。(モジュール I 全体) ・環境保全に関する知識を修得し、それらを活用することができる。(モジュール全体) ・環境教育、環境コミュニケーション等の重要性を説明することができる。(科目 I (c)) ・エネルギー、化学物質、廃棄物等のマネジメントに関する知識を修得し、それらを活用することができる。(科目 II (a), (c)) ・身近な例について、課題を探求し、情報を収集して分析することができる。(科目 II (b), (d), (e)) 		
学生の皆さんへのメッセージ	私達 21 世紀市民が目指すのは、人類の持続可能な発展(sustainable development, SD)です。そのためには、環境配慮への理解を深めるとともに、環境保全に関する基本的な知識が必要です。それらは、21 世紀市民が教養として身につけておくべきコモンセンスです。本モジュールは、そのような観点から環境に関する理解と知識について学習します。		

	科目名	担当者名	概要	キーワード
モジュール I	(a) 環境法(国際法)と環境問題への取組み	山下 敬彦	環境問題に対する考え方、環境法(国際法)の歴史と特質およびそれらの概要について学習し、環境問題の基本的考え方や国際環境法の理念・精神について理解を深める。	環境問題の基本的考え方、人間環境宣言、国際環境法
	(b) 環境基本法と環境基本計画	竹下 哲史	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史、国際環境法との関係ならびに、日本における環境に関する基本的法律である「環境基本法」等について学習し、進むべき方向やとるべき行動等について理解を深める。	日本の環境問題、環境基本法、進むべき方向ととるべき行動
	(c) 環境関連法(国内法)と環境コミュニケーション	久保 隆	環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律や環境配慮に関するなど国内の環境関連法について学習し、環境教育や環境コミュニケーションの重要性について理解を深める。	環境配慮、環境保全、環境教育、環境コミュニケーション
モジュール II	(a) 資源・エネルギー問題への取組み	山下 敬彦 藤本 登 嶋野 武志	日本のエネルギー事情について、その特徴と課題を理解する。また、地球温暖化対策推進法、省エネ法等について学習し、日本のエネルギー問題への取組みを理解する。	日本のエネルギー事情、日本のエネルギー問題への取組
	(b) エネルギー・マネジメント	山下 敬彦	エネルギー・マネジメントの実際を理解するとともに、エネルギーに関する長崎大学の現状と課題について理解を深め、長崎大学コミュニティの一員としてとるべき行動を示すことができる。	エネルギー・マネジメント、とるべき行動
	(c) 化学薬品等の取扱い	久保 隆 真木 俊英 竹下 哲史	化学薬品等に関する取り扱いを理解し、化学薬品の取り扱いと安全・安心について理解する。また、安全な取り扱いができる。	化学薬品、安全な取り扱い

(d)環境汚染物質のマネージメント	久保 隆	環境汚染物質のマネージメントについて理解するとともに、長崎大学における廃液処理の実際を見学し、長崎大学コミュニティの一員としてとるべき行動を示すことができる。	化学物質のマネージメント、廃液処理
(e)廃棄物のマネージメント	竹下 哲史	廃棄物の処理に関する法律等を理解するとともに、廃棄物の分別を体験し、廃棄物のマネージメントに関する知識と理解を深める。	廃棄物の処理、廃棄物のマネージメント
(f)環境分析技術 (advanced class)	久保 隆 真木 俊英	環境分析技術を理解するとともに、化学物質の分析を実体験し、環境分析に関する理解をさらに深める。	環境分析技術、化学物質の分析

全学モジュールの目標 キーワード、および授業編成の視点との対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	A	B	C	D
	自主的探究	批判的思考	自己表現	行動力	日本語コミュニケーション力	英語コミュニケーション力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	社会貢献意欲	学問を尊敬する態度	自己成長志向	相互啓発志向	哲学的な切り口	歴史・略史を扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
環境法(国際法)と環境問題への取組み	○				○		◎	◎	◎	○	○			◎	◎		○
環境基本法と環境基本計画	○				○		◎	◎	○	○	○			○	◎		○
環境関連法(国内法)と環境コミュニケーション	○				○		◎	◎	○	◎	○			○		○	○
資源・エネルギー問題への取組み	○				○		◎	◎	○	○	○			○		◎	○
エネルギー・マネージメント	◎	○	○	◎	◎		○	◎		○	○	○	◎			○	◎
化学薬品等の取り扱い	○				○		◎	◎		○	○			○		◎	○
環境汚染物質のマネージメント	◎	○	○	◎	◎		○	◎		○	○	○	◎			○	◎
廃棄物のマネージメント	◎	○	○	◎	◎		○	◎		○	○	○	◎			○	◎
環境分析技術 (advanced class)	◎			○	○		◎	◎			○	◎				○	◎
◎(特に重視)の数	4	0	0	3	3	0	6	9	1	1	0	1	3	1	2	2	4
○(重視)の数	5	3	3	1	6	0	3	0	3	7	9	3	0	4	0	5	5

※工学部・水産学部に係るJABEE項目